

史上初!?! 山下工業所が アルミのチェロ製作

15日～・東京でものづくり展

ハンマーでアルミ板を打ち出して新幹線の「顔」を作っている下松市東海岸通りの山下工業所(山下清登社長)が技術力のアピールに手作業で精巧なアルミ製のチェロを作った。十五日から三十日まで東京・日本科学未来館で開かれる経済産業省主催の「美・技・感性」ものづくり展に出展予定だが、山下社長(72)は「まだいいものができる」と意欲的だ。

同社は日立笠戸事業所の鉄道車両の先端部分を請け負っている。難しい新幹線の先頭車両は山下さんがハンマーの打ち出し加工技術を確立した。これまでに製造された全国や台湾の新幹線車両のうち三割の先端部分づくりを手がけ、昨年の第三回ものづくり日本大賞

では経済産業大臣特別賞を受賞して世界に誇る技術力が認められた。チェロは長男の竜登専務(44)が夫婦で演奏しており「アルミ打ち出しでできないだろうか」と頼まれた。一度は断つたものの、ものづくり展出品の依頼もあって挑戦した。素材は新幹線と同じアルミ合金。設計図は米国立音楽博物館にある十六世紀半ばの世界最古のチェロで、バイオリンの世界的名器を製作したストラディ・バリウスの師と言われるアンドレア・アマティ作のものを取り寄せた。

チェロづくりには同社の板金技術のすべての要素が含まれ、表板の七十一カ所の厚みなど設計図の細かい記録をもとに五種類の異なる断面の型板

●下松 ● 世界に誇る 打ち出し技術アピール

を作り、山下さん自ら表と裏の面の微妙なふくらみまで忠実に再現した。側面は渡辺英樹さん(31)が機械で曲げ、それぞれのパーツを岡田進さん(59)が溶接した。ヘッドの細かい装飾や弦を巻くペグなども本物そっくり。かかった時間は五人でわずか一週間だった。完成したチェロは全長百二十センチ、幅四十三センチ、厚さ十二センチで重さ十キログラム。今回は形の再現にこだわったため、音はこれから。竜登専務も「バイオリンやピアノも作って弦楽四重奏もいい。チェロは世界的演奏家のヨーヨー・マにあげたい」と夢をふくらませている。

66人と過去最高の人口へ

ベッドタウン化、企業の好況など影響

二月末の総人口は前月比二千七百人増の五万五千七百六十人で、年度末の異動などでピーク時までもと六十五人は突破できそう。この傾向は市内のほとんどの小中学校で児童、生徒数が増えていることにも出ている。全県の人口も毎年約一万人ずつ減る中で過去最高の人口の更新前まであと一步に迫っているのは明るいニュースで、ある男性(35)は「住みよさラホームを建てる人も多く、周南市のベッドタウン化の一面も見せている」と話していた。

2月末で55,760人に

下松市の人口	
2月現在(外国人を含む)	
世帯数	23423
男	26952
女	28808
計	55760

下松市役所の人口表示板

●下松市●

県内十三市で一市だけ人口が増え続けている下松市で、あと六十六人で過去最高ラインを超える。比較的安い地価に支えられて開発が進む住宅団地やアパート、マンションの建設、鉄道車両大量受注の日立製作所や造船事業を再開した新笠戸

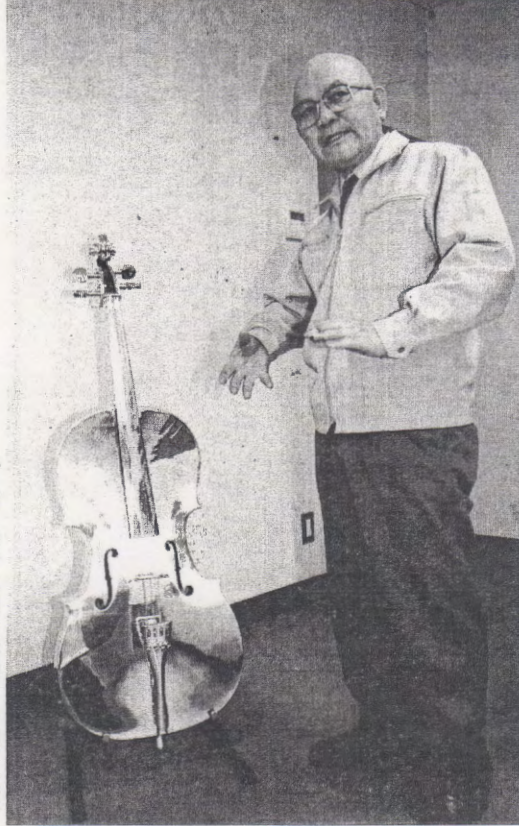
が、二〇〇〇年(H12)に五万五千人台を回復してからは微増、微減を繰り返し、〇六年(H18)は前年比で二百八十五人増、〇七年(H19)は百九十五人増と一気には

▲7日の顔

活に幕

駄目なら人生やり直せばいい」と励まされて乗り越えた。念願の刑事になって二十八年

アルミのチェロを説明する山下社長



ドックの新規雇用などで新しい住民が増えているためで、この傾向はしばらく続くそう。下松市の人口は旧米川村との合併で現在の市域になった一九五四年(S29)が四万三千三百九十七人で、ピーク時の七五二年(S50)は五万五千八百二十五人だった。その後五万五千人を割った

が、二〇〇〇年(H12)に五万五千人台を回復してからは微増、微減を繰り返し、〇六年(H18)は前年比で二百八十五人増、〇七年(H19)は百九十五人増と一気には

島 市食幸処

奈々浦

人気メニュー

奈々浦スペシャル

(7名) 1,575円(税込)

ひあめ料理

下松市笠戸島瀬戸(大橋そば)
0833-52-0085
■定休日/毎週月曜日(祝・祭日営業)

あすの動向

*島津周南市長=東京
*井川下松市長=3月定例市議